

覆う対流圏下層オゾンの動態に関する研究, 環境科学会誌, 2, 87-99.

文部省「環境科学」特別研究「広域大気汚染の動態」研究班, 1983: 広域大気汚染の動態, 「環境科学」研究報告, B163-R11-4, pp. 354.

Muramatsu, H., 1980: A case study of the transport of the stratospheric ozone into the troposphere, Papers in Meteorology and Geophysics, 31, 97-105.

村尾直人, 大喜多敏一, 太田幸雄, 1982: 成層圏オ

ゾンの地表オキシダント濃度に及ぼす影響に関する一考察, 天気, 29, 537-545.

Singh, H.B., W. Viezee, W.B. Johnson and F.L. Ludwig, 1980: The impact of stratospheric ozone on tropospheric air quality, J. Air Pollut., Control Ass., 30, 1009-1017.

Wakamatsu, S., I. Uno, H. Ueda, K. Uehara and H. Tateishi, 1989: Observational study of stratospheric ozone intrusions into the lower troposphere, Atmos., Environ., 23, 1815-1826.



教官の公募について

記

1. 公募人員: 理学部 助手 1名
2. 講座名: 情報科学科 計算機科学講座
3. 専門分野: 計算機科学または関連の分野で研究業績があり, 計算機教育及び研究に意欲のある方.
4. 応募資格: (I) 博士の学位を有するか, 又は確実に取得見込みのある方.
(II) 32歳以下が望ましい.
5. 着任時期: 1993年1月1日(予定)
6. 提出書類: (I) 履歴書
(II) 研究業績リスト
(III) 主な論文の別刷(コピー可)
(IV) 研究業績の説明及び将来の研究計画(2,000字程度)
(V) 推薦書(自薦の場合は意見を述べることのできる方2名の氏名, 及び連絡先)
7. 応募締切: 1992年9月30日(水) 必着

8. 宛先及び問い合わせ先:

高知市曙町 2-5-1

〒780 高知大学理学部情報科学教室主任

長沼英久

TEL 0888-44-0111 内線 203

9. その他: ①情報科学科は1990年4月に新設され「計算機科学」, 「情報数理学」, 「情報処理学」, 「情報基礎学(1993年度設置予定)」の4講座から構成されています(各講座は教授1, 助教授1, 助手1).

1994年4月には大学院理学研究科修士課程(情報科学専攻)の新設を予定しています. また, 1993年3月に教育用電子計算機システムが導入される予定です.

- ②封筒に「応募書類在中」と朱書き, 書留で送付のこと.

す。21世紀の気象学，などということ論じている暇があったら，今できることをしっかりとやって，1992年という年号の入った立派な論文を書いて下さい。

最後は何やら禅坊主の説教めいた話になりましたが，諸君の頑張りを期待しています。



1992年度国際通信研究奨励金の募集要領

1. 目的

国際電気通信に関する基礎的または応用的調査，研究を行う KDD 社外の個人または団体に奨励金を贈呈し，その調査，研究を奨励推進することを目的としております。

2. 調査研究計画

国際電気通信の進歩改善のための独創的な内容であって，その成果が国際電気通信の将来の発展に寄与すると考えられるものを対象とします。

なお，いくつかの学問領域にわたる研究も含めます。また，開発途上国の国際電気通信の開発に寄与する調査，研究を歓迎します。

3. 奨励金の額

本年度は総額 2,500 万円程度で，これを10件程度の調査，研究計画に対して贈呈する予定であります。

4. 申込み方法

所定の用紙「1992年度国際通信研究奨励金交付申請書」にご記入のうえ，1992年7月10日までに到着するようお送り下さい。（当日消印有効）

なお，推薦者は，機関の長またはそれに相当する方が

望ましいと考えます。

5. 選考

当財団の選考委員会において選考のうえ，理事長が決定いたします。

6. 通知

申請された方に対して，選考結果を11月中旬に通知します。

7. 奨励金の贈呈

1993年3月下旬を予定。

8. 奨励金の使途

当該調査，研究計画を達成するために必要な費用に使用していただきます。

9. 成果の報告

奨励金の受領者は調査，研究の完了後にその成果を「研究報告書」として当財団に提出していただきます。

送付先 〒153 東京都目黒区中目黒2丁目1番23号

財団法人 KDD エンジニアリング・アンド・
コンサルティング

電話 東京 (03) 3794-8203

測発祥の地であり、すでに大正年間に高層気象台が設立されたところです。また現在は気象観測測器を専門に取り扱う気象測器工場や、気象学だけでなく地震学や海洋学などの、広く地球科学全般にわたって最先端の研究を行っている気象研究所もあります。このように歴史的な意味でも、また気象事業の展望を開く上でも重要な、つくばに、博物館的な性格を持つ「気象資料館（仮称）」

を設立し、広く一般に公開できれば、地域にとっても喜ばれるものと思います。また、このような広い意味でのキャンペーン活動が、気象知識の普及のみならず次の時代を担う青少年のファン層を広げることにもつながる事と思います。その後この運動は、毎年の気象教室の機会などを利用して、小さなリーフレットを作って、宣伝に努めています。



1992年度研究調査助成募集要項

1. 対象者

助成の対象となる者は、大学において学術文化の研究調査に従事している個人又はグループとし、その研究者の年齢は55歳以下とする。

(注) グループは、大学間にまたがってよい。また、その代表者又はこれに準ずる者の年齢は55歳以下に限らない。

2. 研究調査分野の範囲

助成の対象となる研究調査の部門は、次のとおりとする。

法律学、経済学、社会学、理学及び工学

(1) 法律学、経済学及び社会学については、高度情報化や取引の国際化に伴って生ずる諸問題など、現在の重要課題に関する研究を重視する。

3. 助成金の額

1992年度の助成金総額は、5,000万円とし、研究調査1件につき100万円程度の助成を行う。

なお、必要と認められる場合は、500万円の範囲内で助成を行う。

4. 助成金給付の時期

助成金は、決定通知後1ヵ月以内に給付する。

5. 助成金受給者の義務

(1) 助成金受給者は、研究調査終了後1ヵ月以内に研究調査の結果並びに支出の各概要を本財団所定の書式により報告しなければならない。

(2) 助成金受給者のうち、研究調査期間が受給後2

年以上にわたる者は、1年経過するごとに、その1ヵ月以内に研究調査の経過の概要を本財団所定の書式により報告しなければならない。

(3) 助成金受給者は、所期の成果を収めることが困難となったとき、又は研究調査の継続が困難となったときは、書面により速やかに報告しなければならない。

6. 助成金給付の決定及び通知

助成金給付の決定は、研究調査助成選定委員会の選定を経て理事会が行い、理事長がその結果を11月上旬頃書面により申請者に通知する。

申請書の審査にあたり、委員会において必要と認めた場合は、実施計画等について説明を求めることがある。

7. 申請手続

(1) 申請の方法

本財団所定の申請書に所属機関の長の推薦書及び同じ専門の学者の推薦書を添えて提出する。

(申請は1大学1部門につき、2件以内とするよう、学長にお願いしております。)

(2) 申請書提出期間

1992年6月1日から8月20日まで。

(3) 申請書提出先

財団法人 日本証券奨学財団
東京都中央区日本橋茅場町1丁目5番8号
東京証券会館3階(郵便番号103)
(電話 東京(03)3664-7113)

—最近は、海水のモデリングにも興味をお持ちですね。

1983年(ついでにこの年はエルニーニョでしたが)、海軍の大学院学校(Naval Postgraduate School)に滞在する機会があり、そのとき Miles McPhee から海水の下の乱流観測の話の話を聞きました。私は、彼がしてくれた海水の成長・融解のメカニズムに関する当時の説明に満足できず、とうとう自分でこれらのメカニズムについて熱心に考え始めるようになったのです。幸い、海軍から研究費が出ることになり、McPhee と一緒に海水のモデリングの研究を始めることになりました。海水のモデリングは乱流のモデリングに較べるとはるかに経験的な記述が多いのですが、それだけに興味深く、また研究されるべきことも多いと思います。

—今後どのようなことをやって見たいとお考えですか？

いくつかありますが、1つは海洋のデータ同化の問題です。現在は小さなスケールで取り組んでいます。次第に大きなスケールに拡大して行きたいと考えています。もう1つは、大気・海洋の境界層モデルと波浪モデルを結合させて大気・海洋の相互作用を調べてみたいと考えています。技術的なことではありますが、大がかり

な並列計算にも興味を持っています。

—最後に、若い人達へのアドバイスがありましたらお願いします。

そうですね……。特にありません。ただ、1つだけ言えるのは、科学者というのは大変幸せな職業だということです。自分の面白いと思うことをやりながら、給料がもらえるのですから。そして、大気や海洋(物理学や数学ももちろんそうでしょう)の研究はとにかく魅力的な職業だと思います。

—どうも、ありがとうございました。

インタビュー翌日の昼休み、研究所の食堂でたまたまメラー教授に出会った。教授はにこにこしてやってきて「きのう、インタビューのときに1つだけ言い忘れたことがありました。私は大工なんです。」という。何のことか分からず私が戸惑っていると、教授は構わず続けて、「私は息子達と一緒にブロック島(ロングアイランドの東に隣接する小島)に別荘を立てたんですよ。1980年に始めて、ようやく一昨年内装を完成させました。」と嬉しそうに話した。オプティミズムとチャレンジ精神、この2つが教授の研究を支えてきた原動力らしいと思いたった。(新野 宏)



高知大学理学部物理学科 教官公募

1. 所属部門：地球物理学講座
2. 公募人員：助手 1名
3. 専門分野：気象学(大気乱流及び大気境界層)
4. 着任時期：1993(平成5)年4月1日予定
5. 応募資格：博士の学位を有する方、又は学位取得が確実である方。年齢は30歳以下とする。当地球物理学講座には気象学専門の千葉修(教授)と、地殻物理学専門の田部井隆雄(助手)がいます。気象学の千葉に研究協力の出来る方が望ましい。
6. 提出書類：履歴書(1通)、論文(業績)リスト(1

通)、主要論文別刷(各2部、コピー可)、簡単な研究計画書(1通)、推薦書、又は本人について精通されている方の意見書でもよい。

7. 応募締切：1992年10月31日(土)必着

8. 応募書類送付先・問い合わせ先：

〒780 高知市曙町2丁目5番1号

高知大学理学部物理学教室主任

西山精哉

TEL 0888-44-0111(代表) 内線653